

カヌー専門部・熱中症対策ガイドライン

危機管理委員名 菊田 卓也

(所属校名) 小山南高等学校

熱中症対策

事前の対策

- ・ 試合時間は早めに設定し、気温が高くなる前に大会が終了するように大会日程・時間を調整する。
- ・ 事前に出場する学校の顧問を通して、大会出場者や感染者などへ水分を持参することや帽子などでの熱中症対策をするように促す連絡を徹底する。
- ・ 事前に会場を確認し、日陰の位置に選手待機所を置けるように調整する。
- ・ 会場にWBGT計を設置する。
- ・ 緊急対応用に、飲料水や経口補水液などの準備を整えておく。
- ・ 熱中症が起きた際の動きや役割分担などを事前に大会運営スタッフで確認を行う。
- ・ 熱中症対応が可能な救急病院を確認しておく。
- ・ 選手・指導者はスポーツ安全保険に加入をする。
- ・ 熱中症の選手が出た場合の緊急連絡先などを各顧問に確認しておいてもらう。

大会／試合時の対策（当日の対応）

- ・ 朝、各顧問による体調確認を行う。
- ・ 選手に健康保険証を持参させる。
- ・ 開会式でこまめな水分補給などの熱中症対策を行うように促す。
- ・ 会場の状況を見て、適時水分補給などの熱中症予防のアナウンスを行う。
- ・ 気温・湿度・風やWBGT計の状況を見て、柔軟に試合時間や休憩時間の間隔を検討する。
- ・ 本部、発艇、救助、計測、検艇の審判係の場所に、飲料水や経口補水液を常備しておく。
- ・ 熱中症患者が出た際の動きを、試合開始前に役員で打ち合わせしておく。また、監督会議でも熱中症対策を行ったうえでの大会参加や応援などを行うよう促す。